
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 340 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.09.13 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1121 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 3.11 は生態系にどのような影響を与えたのか

—人間社会だけでなく生き物の世界へのまなざしを 塩谷哲夫

<山崎農業研究所：総会記念記念フォーラム (2012.07.21) 速報>

□総会記念記念フォーラム

3. 大江正章氏 (コモンズ代表、ジャーナリスト)

つなぐ・結ぶ・創る—生産と消費、現場と研究

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

<編集後記> デモがテロだって？

<巻頭言> 3.11 は生態系にどのような影響を与えたのか

—人間社会だけでなく生き物の世界へのまなざしを

3.11 の東日本の太平洋沿岸を襲った大地震・巨大津波、そして、東電福島第一原発の放出した大量の放射性物資は、私たちの考え方・暮らし方そして日本社会のあり方に、画期をなす影響を与えた。その衝撃を、日本のより良い社会づくりに活かす糧としなければならない。

だがその一方で、人間社会の激動の影に隠れて表だって取り上げられにくい自然環境、自然生態系への 3.11 の影響はどれほどのものなのか。そのことが気になってならないでいる。原発放射能の影響については、多くの機関、研究者等によって長期間にわたって追究され、その実相が次第に明らかにされるであろう。しかし、津波の影響は砂防林の崩壊、水田の塩害の一次被害が報道されたに止まっている。その後の様々な生き物たちや生態系への影響についての継続的な調査の体制は組まれているのだろうか。

被災後、福島県いわき市から青森県下北半島までの間を、雪で閉ざされるまで走りまわって、トンボやアメンボ、ミズアオイやシロザ、メダカやフナ等の小さな生き物たちへの思いをこめて、巨大津波がもたらした生態系への影響を丹念に踏査した若い研究者がいた。

昆虫類や動植物などの「自然写真家」で、「東北の自然の豊かさに憧れて東北に移り住んだ」と言う永幡嘉之（『巨大津波は生態系をどう変えたのか』（講談社ブルーバックス、2012.4））である。彼は、生き物の環境変化への脆さと意外な適応力などの実態を報告してくれている。また、同時に、人間社会についても言及している。

彼は、人間が生産や生活のために自然を改変して生きものたちの生息域を狭めて「小さな絶滅」を積み重ね、すでに震災以前の時点で、動植物を「隅に追いやってしまった」ことが問題であったと指摘する。

また、震災後の混乱のなか、「非常時」「復旧・復興」の名の下に、あるいは流行の「地域計画」「環境デザイン」の構想で進められている事業によって、「土地の個性」としての自然環境が失われ、そのことが、地域で暮らしてきた人々の「精神的な豊かさ」をも失わせてしまうのではないかという懸念も述べている。

そして、「こんなときに、こんなことをしていていいのだろうか」と戸惑いつつ、こう語る。「人間生活が優先されるなら、道路や電力や水道の整備と同時に、人々が豊かな生活を送れる環境を残して行くことにも努力せねばならないのではないか」と。

先を急ぐあまりに内容検討が未熟のままで復旧事業が進行したり、さまざまな“復興計画”がかまびすしく言われるなか、生き物たちと真摯に向き合う自然写真家の声に耳を傾けることも必要ではないだろうか。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所：総会記念記念フォーラム（2012.07.21）速報>

去る7月21日、山崎記念農業賞表彰式ならびに総会記念フォーラムが行なわれた。今回、山崎記念農業賞を受賞したのは福島県有機農業ネットワーク。表彰理由は「農のネットワーク力にもとづいた福島再生」である。表彰式の後、総会記念記念フォーラム（「福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで」）が行なわれた。

□総会記念記念フォーラム

3. 大江正章氏（コモンズ代表、ジャーナリスト）

つなぐ・結ぶ・創る——生産と消費、現場と研究

東京から見ると、福島からのものは、みな危険に見えてしまう。ある週刊誌には日本のような原発の多いところで原発事故があれば、日本中の食料は危なくなる。福島で農業すること自体が悪のような印象を与える記事も載る。このような風評が語られること自体に世間一般の福島に対する認識のよわさを感じている。

有機農業生産者は、生産物消費してくれる消費者（提携者）を広く持つことで販路を広げてきた。ところが、原発事故によって、多くの人々が提携から離れていった。福島のコメは放射能不検出のものも含めて、農協の倉庫に山積みされたままになった。東日本の提携型生産者は提携消費者の約3割からキャンセルされた。生産者と消費者間の結びつきの希薄化が生じている。

安全性にのみにこだわる消費者は、放っておけば食農乖離に陥る。消費者が田畑に出かけて、農の現状を知り、生産者の話を聞き、ささやかな農の体験をすることが大切である。農作業する中で、農業の大切さを知ること、自らの食卓の食べ物の自給率を高めて行くとき、農業生産の真の価値が分かる。

有機農業はこのような考えを大切にす、消費者の多様な地場産業との連携を深める事につなげる農業であり、地域重視の市場経済とは根本的に異なる産業活動である。このようなネットワークを拡げて「小さな経済」地域を発展させて行くことが、今後の農村復興の研究課題である。

（文責 安富・田口）

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

[第 37 回研究所総会・総会記念シンポジウム]

■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」

(1)東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博

(2)福島—希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也

(3)風評被害を乗り越える経営力を求めて

—東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩

[特別寄稿]

放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳

土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の

可能性について◎高味充日児

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [18・最終回]

情愛のふるさと／宇根 豊

<編集後記> デモがテロだって？

毎週末に国会周辺で開かれる反原発デモについて、週刊文春に掲載された橋爪大三郎氏のコメントがネット上で話題になっている。

「デモが直接に政治的効果を求めることは危険。デモに参加する人は多数でも、国民の中では絶対的少数。絶対的少数が、最も効率よく政治的インパクトを持つ手段がテロ。デモも同様の効果をもつとしたら、少数派はみなデモに走り、言論の自由の範囲を逸脱する。」

概要こんなふうな発言を橋爪氏はしているのだが、脱原発首都圏ネットワークの代表らが首相と会見したことについて彼は「議会を飛び越して首相に狙いを定めている点は天皇を直接動かそうとした 2・26 事件とも似通っている」とも

述べている。あらっぽく言えば彼は「このデモはテロである／テロに通じる」と言うのだ。

先日（09/07）参加したデモでは、こんな主張がスピーカーから流れてきた。

「民意は『再稼働反対！』なんです、野田総理！ だってそうでしょう。『再稼働賛成！』をとるデモは一つもないんですよ！」

思わず笑ってしまったが、たしかにそうだ。再稼働がほんとうに必要なならば、そう考える人たちもまた主張すればよいのだとわたしは思う。しかしそうではない。

この日の晩は蒸し暑かった。まわりを見ると、若い人たちも多くいるのだが、70代以上と思われる人も目につく。ここに来るだけでも・ここで立っているだけでもしんどいだろうな、体は大丈夫かな、と心配になってくる。主張の仕方も人それぞれ。「再稼働反対！」と大きな声を上げるひともいれば、じっとただずむだけの人もある。メッセージが書かれた T シャツを着て自転車で国会周辺を走る人たちもいる。「電気は足りています。足りないのは『愛』」そんなメッセージカードを掲げている人もいた。

テロのテロたる所以は、自らの主張を押し通すために暴力を用いるところにあるはずだ。そうであるならば、このデモがテロだなんて「ありえない」。

2012年09月12日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

（発売：2008/11 定価：1,575円）

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 341 号の締め切りは 09 月 24 日、発行は 09 月 27 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 340 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.09.13（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****